

路上文芸総合雑誌『露〈Rojuku〉宿』

2001年8月25日発行

露宿

第14号
rojuku



定価500円

露宿

目次

表紙写真	高松英昭	
文中写真	岡田知子	
寄せ場	名無しの権平	2
太初の季節	秋戸 空	3
川柳など	小一	4
5年目を迎えた…	K I	5
ハイハイハイ何かいい事有りそうな	弓削鴻介	6
詩「悔い」	矢田道夫	7
拙歌	K Y生	
座右の銘	谷口 悟	8
歌集マルキ船	望月大成	9
短歌	いわせまさと	12
暑中お見舞い申し上げます	悔悟	
花火に酔ったロダン	只野醉払	13
アガペ（無限の愛）他	デービット	17
五行詩	近松雅之	18
天と地ほか	名無しの権平の皆様	19
朝太郎の箱船	鈴木克彦	21
心靈写真の解説	鈴木克彦	25
おきなわ旅日記	恩田美代子	26
湊町より	高橋美香	27
東京路上ふらり散歩	笠井和明	28
	岡田 知子	
読者のページ		35
はり師いが丸の肝心かなめ	はり師いが丸	37
編集後記		38

太峰の季語

焚可 空



寄せ場

なせ? なせ 寄せ場、新潟山谷に来て6.7年
いふ。どの人も、~~私が~~私が一丸兼る話をしかしては
暴カツ悪口 嫌な色話などいふ
何まで 悪、感情的な話をかも相手へ
えましては、神を求める話を なせ 寄せ場

太初の季節

1995・8

秋戸 空

その後この嵐で地上は
一新された。
今度は、新しい生命が
生まれ出てきた。
いくつもの生命が。

わざかな生き物たちは、
次にやつてくる新たな
再生え（へ）の大きな一步！ ふみ出す。
この再生の内に人間種が
誕生した。

今まで吹き荒れていた嵐
ピタリと収まつて
灰黒色の雲塔の狭まから
陽光がさし込んできて
地上は初めて光りに満ちた。

ある時季が来て高い山に
雪が真っ白に積もつた
背のとつてもタカくい木が
ヒュウ・ヒュウ吟り
自然界の内の精霊たちの
ササヤキが聞こえてきた
新らたな生命の誕生か。

高い山の雪が溶けて流れ出し
清流をいくつもつくり
早くよりあたたかい時季が来れば
あちこちから新らたな生命の
欣びが溢れてくる。小さな生命
この子たちの眼（まなこ）も開いて

母親たちの産苦もみんなで
謳歌しはじめる。ここでは
動物や植物の区別はない。
植物はどこからでも
水分を補給するようになつていて。
人間種はあらゆる動物の
乳を飲ませてもらい
それは精霊からの送り物として
精霊に感謝をささげ
動物たちと共に食していた。

朝なのか：昼なのか
そんな朝でもない：
昼でもない“朝”になつた
冬・春・夏・秋：の巡りは
その前からずっと在つたようだつた
しかし夜が今までその天地の主役であつたのだ
はじめに咲き出した
花の色は、何色であったのか
緑色の陽光に輝やき
始めた日がかなり永く続
（しかし元、その夜という間がこの天地の
主役でもあつたのだ）

そして次の嵐が来た。
この嵐の前に：この嵐の前に：
地上では、これからなされるべき
全てがとのえられていた。

こうしてそこで生き残つた
だから精霊（自然界）たちのいたずらは、何度も
何回も、この地上に洪水を送り出した
これは、自然界の新らたなる再生え（へ）のサイ
クルなのだ。

そこで人間種に
死んだ人と
生きている人に
別々の寝台をあつらえて
あげよう…と
精霊は言つた。

路上文芸総合雑誌『露〈Rojuku〉宿』

生きている人たちにも
涙をながすのなら
みんなで乳をのみ

肥沃な大地から得た
母乳を飲もう！

と精靈の言葉が
やがて夜明けが

めぐつてくる、
精靈たちは生命の讃歌を

おおらかに唄うだろう。

そう！：君はみずからを
おしとどめる事はない…

精靈はあらゆる生命に
対して、そう言葉をかけるだろう。

ココヤシの緑の木陰ここに
全ての生命の呼吸（いき）があるのだ

そう言つて全ての精靈が高々と手をかかげ
眼（まなざし）の上に広がる拡大な空を指で示す。

この空のもとに身をおいて
人間種たちは、小さな生命から

大きな生命まで、共に生きている
事を自覚していた。（本能のこと）

それは動物の生命も
植物の生命も同時に

生きていた、そこから
肉や果実を得ることによつて

人間種は、生きてこられたのだ
そして人間種は、動物や

植物の生命に、感謝を
ささげていた。

人間種もたまには、動物に
食べられてしまうこともあった。

その時人間種はその動物を

悪くは、想わなかつた、
それは大地え（へ）カエつてゆく
人の死を、人間種たちは
特に悲しむ事もせず

ココヤシの緑の木陰で
そこに精靈を感じ
この肥沃な大地え（へ）

還つてゆく事を
ココヤシにやどつている

精靈にいのり
そしてその欣びを死者と
生者は、分かち合つていたのだ！

いつの夕暮れか死を目の前にした人は目でいつ
た

“大地に還えつたら君を！何時か！呼んであげよ
う”

“大地に還えつたら君を！何時か！呼んであげよ
う”

死んだ人を“火”で葬し
大地に還えつてゆく死者
に涙し、同時に欣こびの
声をあげ死者を祭つていた。

そして、うるおいを与えてくれる
ココヤシの精靈と空の間の
精靈たちに、感謝し

いろいろな収穫物を持つて
捧げていた。

も知つた
だから大地をキズをつけることもしなかつた。
だらだら大地をキズをつけることもしなかつた。

この跡より肥沃な大地が
そこに生きていた全ゆる生物
(動物、人間種、植物)

たちも感じとつていた。

天に輝く太陽が
大地を豊かにし
再生させることも
身をもつて
知つていたからだ。

この地上が大地の再生を
このサイクルの内ですべての
動物や植物が

あつたからこそ人間種は
生きてこられたのだ
そこには、さまざまな
生き物が生きていたのだ

人間種もそのうちの一人
である事も知るようになつた
だから動物たちの
テリトリーには入らず

犯す事もしなかつた。
人間種もそのようにして
生きていた。

共に生きていくサイクルが存在（あつ）たはずで
あつた。

精靈は何故か人間種に思考することを与えた
ただそれだけであつた：

……その後サイクルの破壊がやつて來た。

いつもこの季節にやつて来る洪水がその地上を
襲つた

それによって人間種たちは、洪水から地震そして
寒冷

まで体験し、それによつて自然のかたちも変化
(かわ)つた。

だが自然界（精靈）がわるいわけでもないこと

川柳など

小一

仲間の皆さんお元気ですか俺も元
気であります
これから一日一日とあつくなりま
すからからだに氣おつけて下さい
生水わあまり飲まないよに
われわれはからだけ
氣おつけ一日もすみよい新宿にし
ましよう

仲間の皆さん元気で居て下さい皆
様のけんこおいのります

笠井、稻葉さん仲間およろしくお
ねがいし

又皆さんの元気な顔を
見る事をたのしみに
病気をおします

どうか皆さんもくじけずにがんば
りましょう

がんばればいつかはなさくときが
くる事をしんじて生きぬきましよう
でわ皆さんお元気で
さようなら

病院でたべるおかゆのあじけなさ
病院でさからう患者部屋の外
しと雨にぬれて色ますあじさいの花
体温計上り下りでさもひやす

酒断てばむかし話に夜はふける
おおとらも飲まずにいればかりたねこ
酔いしれてめざめてみればてつごおし
断酒して酒とゆう字にかてはせぬ
たちのみかすどうりしてはまたもどり
つゆされば蚊とりけむしく蚊やの中
つゆなれどつばめこそだてやすみなく

つゆはしる
らいちようひびく
いなびかり
こころしづか
つゆのあけばの

腹立てばめしもくわずに腹すかす
星の下雨にさまよう猫のむれ
くぢ運も運が悪いとあきらめた
風吹けばほこりうづまくけんかつ序
雨ふれば雨もり防さぐぼうえい序
雪ふればつもりつもつておおくら省

五年目を迎えた

女子の高校野球

K・I

稲城市的駒沢学園女子高校。ここに

女子だけの硬式野球部がある。部員二十人この部に今春、東海地方から二人の一年生がそろって入った。三佳と綾子。すでに主力選手の仲間入りをした。今では生活も一緒に二人の出会いは昨春、三佳が綾子に出した一通の手紙からだつた。初めまして。新聞でなたのことを見て、一緒にやりたいなと思つて手紙を書きました。大倉三佳（十五）は三重県四日市市出身。小学三年生から、枕元にグラブを置いて寝るほどの野球好きだった。親類から東京なら女子硬式野球部がある高校があるときいた。そんな時、手にしたスポーツ新聞にこんな見出しがおどつていた。「目指せ！女松坂」愛知県の中学硬式野球大会で県内最強と言っていた男子チームを完封した女子投手、それが今井綾子（十五）だった。名古屋市出身。親元はなれ、東京ぐらし。女子高校生たちの「甲子園」が八月、福生市である。

ハイハイハイハイ
何かいい事有りそうな

(二)
昔恋しや、田舎の暮らし、
井戸端談義に、花が咲く、

タイムスリップ、されちやつた、
紫陽花彩る、雨上がり、ハイハイ、ハイ、
ルルルル、ルルルル、ハイハイ、ハイ、
私ひとりが、蚊帳の外、
入れて頂戴、蚊帳の中。

弓削鴻介

(一)

洗い晒しの、浴衣が似合う、
姐さん被りの、お姉ちゃん、
今日下駄履き姿も、素敵だよ、ハイハイ、
ルルルル、ルルルル、ハイハイ、ハイ、
何かいい事、有りそうな、
梅雨の合間の、日本晴れ。

(三)

何故にどうして、電話もくれぬ、
すつとこどつこい、豆鉄砲、
愚痴は言つても、ホツ穂の字、
来てよね必、針千本、ハイハイ
ルルルル、ルルルル、ハイハイ、ハイ、
何かいい事、有りそうな、
粹な女の、深情け。

「悔い」

矢田道夫

拙歌

K・Y生

冬

復興の槌音高し、震災の港神戸に繪雪ちらつく
地下袋に雪と氷の絡みつく リヤカー引きつつ一人バト
炊き出しのソバをすりて大晦日、野営の火影に友も笑いぬ
雪つもる建築現場のひとやすみ ガードウーマン タバコ進めぬ
何も無き利根の河原の枯ススキ 護岸工事に風の吹く

春

公園に遊ぶ我が子を見る母よ 遠くにながむる春日和
ふん水を耳に横たう日雇の 胸にハラハラ桜舞い散る
八重桜九重十重に咲き競い 天地宇宙の神を潜える

夏

朝早く弁当よそおう千葉女 只黙々とありがたきかな
黄金の露と玉と光るべし土路工夫に 灼熱の汗
隅田川 ドンと開いた江戸花火 友と語りて夜のふけ行く



「石川ひとつて 好き？」
「そう、よかつたわ」

彼女以外はあんまり好きでない
と言えばよい
ぼくは得意だつた。

◇

「石川ひとつて 好き？」

ウインドウの外に

コスモスの花が見える日

聞いたことがまたあつた

「あんまり好きでないよ」

「そう!! 私にちょっと似ていなーい?」

秋

リンとしたマイクを握るリーダーの 声ぞ逞し上野浅草
柿食わば 医者もナースも青くなる いかなる天地の神のみ恵み

座右の銘

谷口 悟

「赤貧洗うが如し」と言う諺は、戦後五十年余の繁榮の歴史の中に埋もれてしまったものと勝手に思いこんでいた。しかし長引く不況の煽りを受け急増する路上生活者にとっては永久に不滅な諺であることを忘れていた。

その為、今我が国の見せかけの脆弱な繁榮に眩惑され、その歪みの中で苦しみもがいでいる人達の存在さえ無視しがちになっていたのも確かである。その点を反省し悔い改めると共に、現在路上生活者の直面している問題が、自分にもつきつけられていることを改めて認識しなければ、とも思っているところである。決して他人事ではないのだ。いつ、この身が路上生活者に変化しても何ら不思議ではない世の中なのである。たとえ安定した職を得、安定した生活を手に入れたと安心しても、それは錯覚であり、束の間の幻であって、未来永劫ではないのだ。所詮、我々底辺の労働者はトカゲのしっぽ的存在でしかないのである。景気の良い時は、永久就職と言う表現のとうりに定年退職までの期間、生活は保証された。しかしいつたん景気が悪くなると、あっさり首を切られる哀れな存在でしかない。自分の時間を資本家に切り売りして生計をたてている、しない労働者には明日はないのだ。

いつの時代でも、不況のしわよせをもろに受けるのは弱者である労働者ということだ。たとえ愛社精神を發揮して、減私奉公してもそれが報いられない世の中になってしまったのも事実である。

ところで、そういう不況の煽りを受けてドロップアウトした人たちを「ホームレス」と呼んでいるようだが、私だけの偏見かもしれないが、このカタカナ式の表現には欺瞞があり、現実を隠蔽しようとする姑息さを感じられてならないのである。それは私の偏みであり、それこそ世を拗ねた捉え方と批判されるかもしれないが、その考え方根強く心の中に残つてゐるのも、また事実なのだ。これは余談だが、以前は「無職」と呼んでいた。

たのが、いつの間にか「フリーラー」などと呼ばれ、市民権を得ている現象も私にとつては苦々しい限りなのである。しかも「フリーラー」という職業が存在するかのような定着ぶりである。無職は、あくまでも無職であり、アルバイトはアルバイトなのだ。その中間的な曖昧な中からの造語はますます世の中を混乱させるだけだ。と、思うのは、私が時代の流れといふものを把握していないせいだろうか？

一閑話休題、私はやはり「路上生活者」と呼ぶのが、より現在のあり方を表わしているようで適切だと思う。この五文字だけで現実の全てを説明しているのは、これまた確実なのだから。

しかし、どんな表現を用いようと、現実の厳しい環境がそれによつて好転するわけでもない。「路上生活者」は常に飢えと渴きの毎日であり、心身共に休まる時もない過酷な世界に生きているのである。そう言う厳しさの中で、常に前向きに「生きる」ことに取り組んでいる姿には尊敬の念を覚えるし、何よりも評価したいのは、「渴つても盗泉の水を飲まず」と言う姿勢を貫いていることである。このことを思う時、私は今の生活が、これまでの生き方が恥ずかしく思えてならない。路上生活者の中には弱い人はいるはずだし、私のような落ちこぼれも存在するのも事実である。しかし、それも本当にごく一部の人であつて、そのことで「路上生活者」の評価が下がるわけでもない。

ともすれば世間の「路上生活者」に対する視線には、存在すら許さないと決めつけるかのような明からさまな蔑視が感じられる。同じ人間である筈なのに、それすら認めようとしない。そんな中での生きる闘いは生半可な覚悟では、すぐはじき出されるほどの真剣な闘いである。その点をわきまえた上で、これから先、私も、いつ皆さんの仲間になつてもあわてふためくことがないよう、心の準備はしておかなくては、と思つてゐる。

そして、その私に援助の手が差しのべられた時、私はありがたくその手を握り返したいと思う。その場合でも、常に上がろうとする自立心だけは所持していただきたい。そんな気持を抱き、これから先「渴つても盗泉の水は飲まず」を座右の銘として、仲間に負けないよう、しっかり生きてゆかねば、と決意している。さて、今年の夏は猛暑ということで毎日が大変だと思う。皆さんも、日々頑張つて欲しい！



マルキなら丸木の舟か さに非ず
 ランボーにあやかる旅の乱暴船
 キの字に丸の 飲んで歌つて
 キ印の舟 酔いどれの舟

 見掛けでは切出し丸木 船頭が 夢に見し青い花咲く桃源境
 ホンモノキ 老い馬一匹
 馬が一匹 さすらいの旅

 マルキ舟 晴れの舟出はあて知らず
 出でたちは丸腰なればチヤカはなし
 キ印一匹 サリンもなくて
 放浪の旅 ペンの一本

 重宝かな 水陸両用 マルキ舟
 返り見るはるか西方 富士の山
 水なし川も マルキの里も
 すいゝのすい 今はなつかし

 ふる里は富士の裾野のマルキ村
 マルキ舟 出たとこ勝負もはや挫折
 名は上九とて 馬捨川で
 キ印の里 難破船とは

 反逆のユダが一匹 マルキ舟 取囲み
 難破船 餓鬼が八匹
 帰らぬ旅 八股のオロチに
 甲州路かな 命からゞ

 この世にはあるはず無しの竜宮城
 好きこのみ山を目指したわけじやなし
 マルキの舟を 迷いゝて
 亀に仕立てて 馬捨の川

路上文芸総合雑誌『露〈Rojuku〉宿』

よく見れば馬捨川は生け簾かな

名は澄み田とて
ヘドロンの川

隅田川 水はあつても水無瀬川

囲いの生け簾

馬の糞だめ

座礁せるマルキの舟はドック入り

ドヤの浦島

岡の河童は

春きてもうらゝにあらず 生け簾川

造花の花に

馬が浮かれて

お花見も造花にあらば匂いなし

せめて香水

痴女のショーンベン

老いぼれの花咲爺いに花咲かず

枯れ木に造花

馬踊りして

馬なるに歩く姿は二本足

役にたゞは

真中の足

キ印はお医者様さえお墨つき

何で今さら

隠し事なる

馬なるに尿出しパイプ 山羊ノ介

花咲爺いは
痴女も見捨てて

なれ初めば類が友呼ぶ世のならい

サロン『竜宮』
④ぞろゞ

気がつけばマルキ仲間の人気者

ニセのセンセも

こゝじやホンモノ

マルキとて恥にはあらず 狂氣こそ

神が英知の

榮光の道

裏社会 何でもござれ 類は友

竜宮城で

飲んで浮かれて

マルキとて生きる権利は人と並

四つ足ならぬ

足が二本は

頼るマルキ暮しの半世紀

弱き子羊

ついは狼

マルキには怖いものなし オウムの出

サリンもまけば

チヤカは百中

殺るならば花火大会 人ごみの

两国橋で

サリン百発

殉教の真ごころあらば敵はなし
一人百殺

サリン抱えて

野に放つ狼一匹 元オウム

虎視眈々は

獲物探して

キ印が子供八人 ぶった斬り

山で馬なら

サツがほく

免罪符 いらぬはずなり 山谷では

馬を始末は

国に御奉仕

来世の事など知らず マルキなら

晴らす恨みは

現世の知恵

食いものん恨みならねど敵は敵

一億ならば

サリン千発

目には目を 菌には菌なるが我が撃成

数は目じやなし

敵が幾億

ありがたや サリンまいともとがめなし

キ印なれば

免罪符つき

殺し屋もキ印ならば逃げ道は

キ病棟で

余生のう

竜宮で酔つたふりしてお触り魔

馬子一喝

『キ印は駄目!』

恋すればひじ鉄一発 鍋の蓋

マルキの馬は

お断りとて

キ印は余計者でも山の主

追ん出したくも

行くあてがなし

大成 君とても同じ馬人 二本足
人のなりして 歌はいなゝき

醉客 馬なるに人の面してサロン入り

ましてや(キ) お門違いぞ

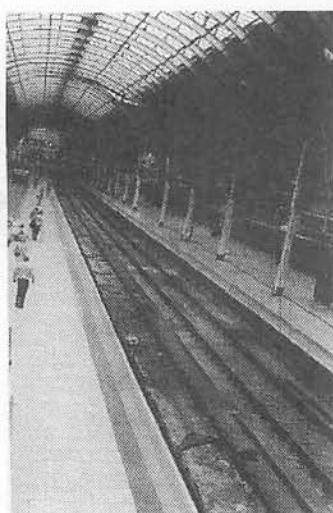
馬とてもマルキにあらば格違ひ

変身すれば 狼の内

狼の内

大成 馬とてもマルキにあらば格違ひ

お門違いぞ



短歌　いわせ　まさと

醉ふほどに悔ひと怒りが浮かび来て

店客にからむもなぐり返され

足袋裏の奥ひこもりし飯場夏

いつのまにやら体奥となる

ぶらぶらと飯場生活くり返し

夢もいつしかめし酒の事

油照り一日土掘り命ぜられ

にごりて奥き小便たれる

はれ足のこはぜかぶれ血膿出て

地下足袋より異臭しきりにはなつ

一日の人夫デズラ九千円

やけつき道路につばはき受け取る

一ぱいのチューをめぐりてどなり合ふ

いつのまにやら平氣となりて

暑中お見舞申し上げます

何か毎日の新聞、テレビを見ていると親が子を、夫が妻を、メールの友達とか言ってなぜ何の事で人をあやめるのか、前にも書きましたが、人の命の尊さなどと云う事は今は何と思っているのか解釈に迷いますね。露宿を読んでいる人達だけは、おたがい想いやりを持って仲よく、此の様な事の無い生き方をして行き度いと思います。まだ熱い日。



手塚悔悟

花火に酔つた

ロダン

只野酔払

7月25日、26日、27日のマックプログラムは、江の島の片瀬力トリック教会での合宿だった。参加者は30名を超えていた。一泊の人日帰りの人もいて正確な人員はわからない。

新宿小田急西口改札口に9時50分集合に、2、3名遅れた人もいたが無事に10時20分発急行片瀬江の島行きに乗ることができた。11時35分片瀬江さすがに二泊ともなると荷物の量も多くなる。島到着。お昼の弁当等を買つたりして片瀬力トリック教会には予定表どおり11時50分に着いた。

荷物は二階、二階が宿泊する所であり、ミーティング場と決つていた。二階には一号室二号室、三号室があり、女性は三号室、一号室、二号室は続き部屋になつていて、布団を30枚以上敷ける広さだった。

さっそく昼食、その前に全体会議、諸注意事項の告知等があり、笑顔の中での昼食のあと、全員で片瀬西浜海岸へ。ロダンの江の島は、100回を超えるだろうか。飲まないで江の島を見るのは、生まれて初めてのことだ。お酒のない海は、高校生

位までだから、お酒のない海は初めてといつていいだろう。高校生のころロダンは札幌に住んでいて夏休みには、お袋の実家である空地郡雨竜町（当時は村）に必ず行つて、海には行つた事がなかつた。

ロダンは昨日の寝不足を感じていて、25日は海に入らなかつた。仲間が泳いだり、砂浜ではしゃいでいるのを見ているだけで、自分がそのようにして楽しんでいるかのように思えるのもミーティングで鍛えているせいなのだろうか。仲間のスリップの話し、飲んでいた時の悲惨な話を他人事ではなく、自身の体験として感じられなくてはいけないのだ。

ロダンはスリップすることなくもう一年三ヶ月飲まずにいる。シアノマイドを服用してお酒を飲んで死ぬ思いをした話、一杯の酒位と思つて飲んだ酒がたちまち連續飲酒になつた話を聞いていて、まるで自分自身の体験と思えるのだから、こうして飲まずにいられるロダンなのだ。

16時30分から合宿での一回目のミーティングだ。泳がないから時間があるので近くを散歩してみた。海の家があり、屋台が並んでいる。つぶ焼、イカ焼、たこ焼、そしてビールを旨そうに飲んでいるのをやはり冷静には見てはいけない。一人でいると不安がよぎつてしまい、そそくさと仲間の所へ戻つてしまつた。合宿でのマックプログラムがなぜ、毎食全員で食事をするのか、なるほどと思った。海の解放感は、日々一人で飲食街を歩くのとは全く違う、海ではついふらふら飲んでしまいそうに思えるのだ。危険は避けるべきものなのだ。

16時30分からのミーティングも終り、それぞれの仲間が、それの思い込めた夕食を済せて、19時30分からの江の島花火大会の見物をすることとなつた。昼間海水浴場で、所長が30人分位ござを敷いて場所を確保してほしいと海の家に頼んであつた場所へ

出掛けた。海岸から20メートル程の一等席での見物は、まさにかぶりつきそのもので、大輪の花が咲くたびに飲んでいない声で、「タマヤー」の掛け声よろしく、大はしゃぎにはしゃぎまくった。丁度一時間の連続花火は飲まないで生きる目的の仲間にとつて、門出の花のプレゼントだった。過去の花火見物は全て酒を飲むための口実だった。ロダンは生まれて初めて一時間の花火を満喫した。30人の大家族が連れ立つて花火の美しさに酔いしれながら帰途についた。

海岸の夜は涼しい。帰ってすぐに床について眠ってしまった。お酒を飲まないと眠れないと思っていたのに、そんなことは全くない。飲んだくれていたころは、単にお酒を飲みたかっただけなのだ。昨年4月25日に松沢病院に入院して45日目に眠剤を止めてから二週間位は眠ることに苦労をしたものだが、今は全くそんなことはない。テレビを消して、電気を消して眠ろうと思えば眠れるようになつた。

7月26日、5時30分起床、一階へ行って、まず朝のコーヒーを一杯飲んだ。仲間が二、三人いてお互にさわやかに朝の挨拶を交わした。コーヒーを飲み終つて朝シャンをした。とても気持がいい。天気予報は最高気温が30°Cといつてた。理想的な気温だ。6時にロダンは江の島へ向つた。飲まない足はたくましい。昼間はエスカーレが頂へ運んでくれるのだが、早朝は動いていない。いや、動いていても乗るつもりなど毛頭ない。料金は350円。料金表を見ながら歩いていると何故か350円もうけた気持になるのが不思議だ。

江の島岩屋は長い年月を経て波の侵食でできた、第一洞窟と第二洞窟とで成り、洞内は神秘的音響、照明で演出され、江の島の浮世絵や竜神伝説に基づくオブジェの展示など江の島の歴史と文化がいっぱいなのだろう。

ホームレス自立支援法 案ついに国会上程！ 早期成立を求める秋の 臨時国会行動へ！



新宿連絡会NEWS VOL.24号 好評発売中！(B5版15P 100円)
東京路上生活メールマガジン
HOMELESS NEWSも好評刊行中！お求めは手紙、FAX、メールにて。メールマガジンは連絡会HPに今すぐアクセス！

新宿連絡会

111-0021 東京都台東区日本堤1-25-11 山谷消防署前
☎ 03-3876-7073 / 090-3818-3450 FAX 03-3876-7073
ホームページ <http://www.tokyohomeless.com>
メール shinjuku@tokyohomeless.com
<カンパ金送り先>
郵便振替口座：00170-1-723682 「新宿連絡会」

風光明媚な「江の島」や、昔の人が歩いた「ゑのしま道」には沢山の史跡名勝や色々な歴史を物語ってくれる神社や寺院などがある。ついでに片瀬カトリック教会から湘南モノレールあたりのこんもりとした緑の山、バゴタ型の白い塔が見えるのだが、そこは片瀬山公園と寂光山龍口寺だ。龍口寺は日法聖人が建立した日蓮宗門隨一の靈迹寺院です。境内の奥には明治43年（1910年）建立の五重の塔がそびえています。大本堂、大客殿、五重の塔はみな総ケヤキ造りです。立正安國論を唱え他宗を排撃した日蓮は、ここで鎌倉幕府により処刑されることになりました。役人が刀を振り降ろした時雷鳴轟き光り物が来襲、日蓮を救いました。

土牢で夜明けを待ち佐渡へ流されました。毎年9月12日には龍口法難会が盛大に行なわれます。仏舍利塔は日蓮上人法難700年を記念して日本山妙法寺より寄進されたバゴタ型の白亞の塔です。中にはお釈迦様の真骨が奉安されています。ここは江の島全景が眺められる景勝地です。とある。

教会に戻つて朝食を済せ、海へ、泳いだ、泳いだ、泳いだ。生まれて初めて泳いだ気持になつた。

昼食の後は片瀬西浜海岸でスイカ割、良く冷えたスイカが旨かつた。そして海は広い、広い気持になつて海を眺めていると仲間の二人が江の島へ行くという。三人で江の島へ行つた。今日の人出は昨日の花火大会に多数来たこともあって少なかつた。三人の健脚はまたたく間に江の島を制服した。

この日の夜、マック家花火大会は江の島弁天橋のほとりで、前日の花火大会に負けない楽しきだった。一杯の酒コップを持つ手が線香花火に替つていた。もうその手は震えてはいない。「タマヤー」こそなかつたが、マック家の花火は江の島の夜景をしのいで夜空に輝いた。もう、お酒を飲まない喜びを感じているマック家

全員が笑顔で江の島の最後の夜を花火で満喫した。

あつという間の二泊三日、7月28日がやつてきた。今日は台風が近づいていることもあって波が高い。午前中、回復のトランプをする者、将棋、オセロ、飲まなくても楽しめる事はいくらでもある。

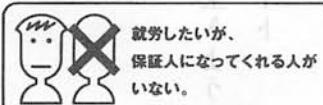
13時になつて全員で片瀬カトリック教会の大掃除をした。すっかり元通りに復元して帰途についた。
片瀬カトリック教会に感謝、みのわマックに感謝、今日一日に感謝、そして、仲間同志お互いに感謝。



「心」と「心」、つなぎます。

自立生活サポートセンター 「筋（もやい）」始動！

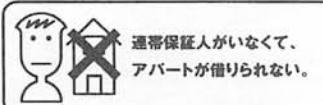
野宿者（ホームレス）、生活保護受給者などの
自立を妨げているものは、何？
社会的弱者の抱いている心の悩みは、何？



就労したいが、
保証人になってくれる人が
いない。



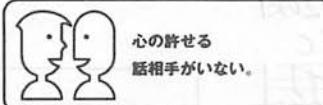
自分をこと解ってくれる
友達が欲しい。



連帯保証人がいて、
アパートが借りられない。



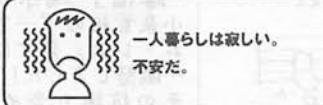
一緒に遊んだり、
旅行に行けるような
仲間が欲しい。



心の許せる
話相手がない。



体の調子が悪いのだが、
診察費を払う余裕がない。



一人暮らしは寂しい。
不安だ。



年金のことや借金のこと、
詳しく知りたい。

自立生活サポートセンター「筋（もやい）」が解決します!!

自立生活サポートセンター「筋（もやい）」は、野宿者（ホームレス）・元野宿者を始めとする「自立をめざす生活困窮者たちの互助会」を中心に、保証人提供事業などのサポート活動を行います。



自立生活サポートセンター
筋（もやい）

〒160-0015 東京都新宿区大京町3 大京マンション304 「スペースかぼす」内
TEL 03-5367-5666 FAX 03-5367-5667

*「事業内容説明書」も用意しております。詳しい情報を
お知りになりたい方は、下記までご連絡ください。

アガペ (無限の愛)

ディーヴッド・セバスチャン・スズキ（鈴木）作詞・作曲

一、路宿の辛さも、朝日に消えて…

、路宿の辛さも、朝日に消えて。
虹色の未来に、無限の愛を知る。

あなたも、私も、人間：同志!!

心の中にも家を持ち、無限の愛に生きよう。

エターナル・アガペ

心の中に家を持ち、無限の愛に生きよう。

(*ct.home-hull in our heart eternal • AGAPE!!)

二、 路宿の涙も、星影に捨てす

、路宿の涙も、星影に捨て、
月の光りに、永遠の、無限の愛を見る。

あなたも、私も、人間：仲間!!

心の中に家を持ち、無限の愛に生きよう。

エターナル・アガペ

心の中に、家を持ち、無限の愛に生きよう。

(*ct.home-hull in our mind eternal • AGAPE!!)

Handwritten musical score for AGAPE (愛の歌) featuring lyrics in English and Japanese. The score includes:

- Key signature: A major
- Time signature: Common time
- Tempo: Slowly 12
- Instrumentation: Bb, D, G, SUZUKI
- Chord progression: Am / C
- Lyrics:
 - Home - full (in my) heart.
 - eternal AGAPE our mind

「露宿」編集部様へ
小泉首相の『…乞食…ホーム・レス』発言には、全く…激怒しました!!
その抗議も含めて、ホーム・レスならぬ一フル讃歌 真実の中に天父、よりての天母、心の中には存在する!!』が、天母、地父、地母…の靈示による樹の大銀杏木公園にて作曲した。お陰で~創作~出来前に作曲した曲の方へ~二十年前にアレンジしたモノを少しアレンジした作品です。
ホーム・レスの反対のホーム・フルと云う言葉も創作です。(笑)。
題名は『アガベ(無限の愛)』
ホーム・フル(レスに非ず)
讃歌として
全国の、路上・生活者・軍團に唄つて一貫い度いと思います。……

SHIBUYA-LOVE・STORY ♡♡♡♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥

皆んなで唄おう!...デービッドの歌。
(歌手大募集!CD化大希望!)

渋谷・ラブ・ストーリー

ディーヴッド・セバスチャン・スズキ(鈴木)作詞・作曲

はじめ、キスしたる公園通り、
① 桜：散るゝ春の宵。

愛しあつても、別れは来ると知つていながら…

重ねた：デイト。109 センター街、地下酒場。

*ああゝ渋谷、ゝ（ああゝ渋谷）あ、あ、あゝ（①～④同じ）

渋谷／ラブ・ストーリー。

ハチ公：広場の、ギターの弾き語り、

風もナイゝ夏の昼。汗も拭かずにく

唄う：あなたのひまわり笑顔と、ハスキーヴォイスに、

ジンと痺れたる私のハート。

*ああゝ渋谷、ゝ。あ、あ、あ、あゝ、渋谷／ラブ・ストーリー。

③ 況いて別れた道玄坂に、小雨：降るゝ秋の夜。

望み捨てずに生きるよ（!!）と、言つた：あなたのゝ

面影：抱いて、酔つて夢見るゝ酒場の女。

*ああゝ渋谷、ゝ。あ、あ、あゝ、渋谷ラブ・ストーリー。

男と女の出会いの、バルコ。雪がチラゝ冬の朝。

妻と別れたるあなたの噂、聞いた二階の、

ティー・ルーム。私は、私の道を行く。

*ああゝ渋谷、ゝ。あ、あ、あゝ、渋谷ラブ・ストーリー。

震災

刃

自己嫌悪

大した事あらへん

空襲に比べたら

柳行李一つで

神戸に出てきた

あの時に比べたら

嘘をついて

金なんていらない

あなたの住む

この町に落ちる

同じ雨に

濡れたい

言い訳

言い訳を探して

あなたから

目を逸らすけど

あなたの瞳は

逃してくれない

真夏の朝

孤独感

昔と同じ優しさが
刃となつて
心を傷つける
今は優しく
嘘をついて

一つの嘘を守るために
また嘘をつく
嘘を重ねるたび
自己嫌悪へ向かう
心のベクトル

孤独感

目に入った

汗が痛くて

目が醒めた

汗まみれの

今日の始まり

蜘蛛

まだろみの中

蜘蛛になつて

巣を張り巡らせる

良い夢を

引つ掛けるために

不毛な戦い
続ける奴らに
叫びたくなる
真の敵は
他にいる！

操られ人形

心に棲みついた

蟻地獄が

挫折の度に

生き血を吸つて

肩越しに見た

夕日に魅せられ

動けない

あなたが去つても

ずっと見てる

煮断欠勤

詠ぎ疲れて煮断欠勤
上司の留守電完全無視

遠い所でリフレッシュ
自分取り戻す反乱だ
そして翌週クビ

蟻地獄

心に棲みついた

蟻地獄が

生き血を吸つて

落日

肩越しに見た

夕日に魅せられ

あなたが去つても

天地

101. 6. 24

今日の日

2001.6.7. 1

暑 逃げられない。密度の高さに押しつぶされる。

空 汗のイメージ。梅雨空の压迫感

道 灰色の固くて長い地面。もっと茶色で柔かくて
記憶がある。

目 (目の前の一つの目は、やさしさを
やさしい、一杯反射する。)

暑い。今日見正もの。夏の空氣。

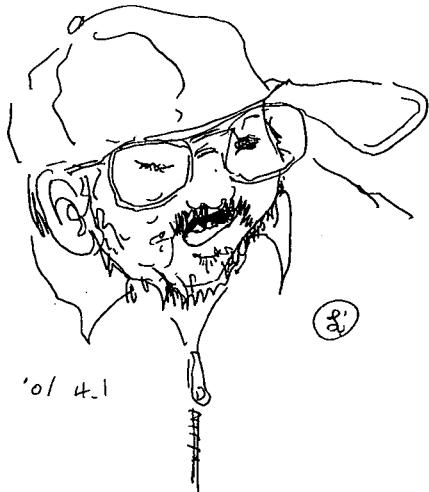
現実のモノは本物なだけ
何でもかでも「よせ場」の人たち

自己足立とC2113

权力はコニ持つて<合意的>。

暴力をふるう！ 一歩山道の人たちは
どうか？

Y, 3, 11は、上昇する
傾向はどこでいく?
スルレニスクとくつかが生じた
→4Lホ、4Lル.
復活地図はお、213月16日



二人の自分 '01年 6.17

現実の自分はクソみたいに
汚たれく、くさい自分が嫌で
嫌でしようがねえ。
しかし理想的な自分も。『
理想的の自分はお金持ちで
宝石のようやく、女の子には
もてる自分になりたくてしま
がで』。

'01年 6.3

嫌いななりたい人
ある女小金井に恋をして
いる。しかし女好きになれては
いけないと思いつつも好き
である。どうして女好きになってしま
はいけないかと「うとバカだ」
女だから、感情を知性も
ない。私が人生に求める
ものはこの感情と知性だ。H
である。

青眼牛

(光と影)

影という感性
を追いかける。
情熱的に
生きようとして
つきづき、また
つきづき
落ちていく自分

朝太郎の箱船

鈴木克彦作

二 朝太郎がやつてくるの巻

一 集団もの狂いの章

海は外海 天気は大嵐 大波と大風と大雨
電機も消えたボロ船は 昼も夜もマツ
暗で 荒海に身をまかせつきりの古女房
か寝たきり姿の醜態か
船首は高く高くもち上げられて天にゆき
ダッパンと海面にたたきつけられて大
音響 次には海へ潜り込む 船首つつ突
つこめやオカマ船尻空を向く
そのたび人々は天国と地獄を行ききして
船底床を上下にころげ回り 舌をカソンだ
りチッたり 吐き上げたりの阿鼻叫喚
の地獄絵図 ただでさえシケたる顔が時
化のためユガミに歪む
沈んでゆく船室の丸窓は 緑から青へ紫へ
青黒と色を変え 次には紫 青 緑そし
て灰色へと明度段階彩度段階を顯示する
船はバタフライのドルフィンキック その
上ブエーネン ブヨヨオオーンと不気味
な風の音〇雷〇 そのあい間には魔女の
叫び声 ハヤーッ ヒュハーと耳苦しい
いい加減にサラセ！ とわめいて拳を握り
立ち上がりつては ひっくり返つてゴロラ
ゴロ これも朝太郎の手抜き工事で間仕
切りの鉄板壁にボード張りつけ 手スリ

をつけなかつたから
おかげでマジメな狂人 船首上がれば船尾

の方へ鉄板目ガケテ猛突進 船尾が上が
ればキトクな痴人頭から逆方向の鉄板メ
掛けで走り込む

六つの大部屋に三百人もいる痴狂人が一齊
に鉄板メガケテゴーロゴロ 臭いパンツ
の割れ目に鼻先のめり込ませたり 鉄板メ
にドエライハードキッスされたり アゴ
で足をケラレたり ガップリ尻に噛みつかれたり さすがのア

ホーの長い寿命もぢぢみに縮む

乗客息もタエダエ チビリも絶え絶え 命
もたえだえ 一体何日続くのだこのクソ

嵐

こうした嵐の音の中にある者は ワーーー
スリップしてしまいワーウーーー
夢も現も分からなくなつて ある者はボー
トレースに自転車競技場に行つたきり戻
つてこない
東欧から奇妙な運命の波に乗つてきた難民
が 悲しい日々を思い出し 長い長い道
を歩かせられた当時に帰つてゆく 爆撃
と戦車の走る音が甦る
ああ何んと 人とは悲しいものか
それも 人の煩惱百八種もの音をたてる嵐

船が悪いのだ
上下に動いて軋むドッタンバッタン キ

リのギリコ ミリミリミシミシ ビリビ
リ 斜に傾いてギシギシギクギク ブリ
ブリ ガラガラビシャン

まるで大船が大グソをして大吐き上げこい
て呻いている為体 今にも水中分解する
ほどだ 馬飲鯨糞の非始末体
ああヤメテクレ 帰してくれ 死ナセテク
レ そらくさんだ 酔いどれ船の狂い

船 絵で見りやあ メデュース号のイカダなん

てしひれるような感動もオコルけど 船
にいる者一秒一秒が死と生の長い失望の
連続だけだ

ショセン難破船は絵画や文学・映画などで
タノシムもの 現実は苦しむだけのもの

その夜もボロ船守る人の尊き優しき愛の心

(注)は忘れてナラヌ 船橋に戦つてい
る朝太郎らマルキの幹部はまだ辛い
四十メートルにも及ぶ巨大な狂った海ボー
ズの金玉が黒々モリモリと青スジ白スジ
立てて 襲いかかるのだ 船員氣絶と正
氣をくり返しつつカジをとる
次には四十メートルの波の谷底メガケテ突
込むもの凄さ 南無三南無死ナム五郎
しかも次には四十メートルの大金玉がバ

ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO

ガーッと殴り込む ブチ押しつける
波に乗れなかつた船の背に 時には何十ト
ンの波がドガバッと落ちてきて 船内外
に爆発音がカマビスしい
それでなくとも発酵しすぎた船中の クソ
ガスが爆発寸前 大波被るタビ 戦艦大和
のよう爆発して二千メートルもの上空
まで火を上げ 三つに折れて沈みやせぬ
かと 大波と裏腹にテンポが縮む
けれどこの大波に立ち向わなくては 船体
横倒しななつてオダ仏 アミダ仏 シヤ
カムニぶつ
進むも地獄 退くも地獄 沈むも地獄 爆
発するのは焦熱地獄 わずかにグリグ
イリともち上げられるのは気持がいいが
次にはダッバーンばか船よさつさと ドドドザ
ザザー 割れて碎けて裂けて散れ（注）
と叫びつつ

これはモー 神とアクマの戦いだ 人の命
を何とも思わぬ神々が キチガイめこれ
でもかコレデモ力と打ちのめす神力救援
力天罰力

これに雄々しく立ち向う バカ力きちがい
痴呆力 我々にはアクマ様がついている
悪は常に正義に勝つものだ 悪がホロ

ビタためしはないと信じつつ死力を尽す
こんな神のクソ波にいじめぬかれて死ぬ
のか 神の雷に焼かれ果てるものか
神足三面八臂の腕で殴られ蹴られ潰され
てナルものかと 真正面から挑む拳国一
致のマルキのカンブの心いきましさ
見よ神の力のもの凄さ ポセイドンの山の
ような水金玉を喰らって吐き出しつも
神々の力の前にヒレフサヌのが イワ
ンのバカのような痴人の精神

時は世の末 日は朝昼夜 風・雷・大波名
のり上げ 總ては絶望（注） ジンルイ
六十億が沈み死に 不淨船破滅船にハメ
られた 惡靈つきのギャベッジ人 負け
おしみの狂歌を 一題

神の呪縛を破る狂氣船（お茶の名）
たつた一杯で神々夜も眠れず（注）

これでいいのかこれでいい
世界は下りすぎたし（下らないの反対）人
口増えすぎた 文明開化は發展しすぎた

車やビルや宇宙ゴミまでアフレすぎた
だからヘラスペべきと考える神々はあま
りに正しい 御正解 全能全知 然りゴ
モットも 神がやらなきや誰がやる

水ズクカバネの英靈に 山ニスムカバネに
野性の王国見せるがいいぞ
良かつたいかつた大国小國の虚榮戦争も終
つたし 各国の首脳の命も終りを告げた
アフリカのガイコツみたいに瘦せた人々よ
サハラ砂漠にも水がきてよかつたね
海草生き始めた旧砂漠もうすぐハールで
すねえ 恋をしてみませんかあー（注）
P L Oもイスラエルもアラブ諸国 バルカ
ン半島も朝鮮問題その他に恒久和平が訪

ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO

「ああやはりみんなと共に逝くべきだった
冀と屍を分離し蒸留したモノではないか」
「世説この世は夢世界 三千世界も夢の内
人が造りあげた夢の殿堂 人は夢なくし
て生きられぬ どうせ生きてゆく身なら
夢を見ましよう 死ぬるまで」
「わたしはマンダラ狂 戰艦大和の司令塔固
りの砲の配置はマンダラである アッバ
ス朝の内城もマンダラである」
「オレたちや食便ガキよ

人のフンを食い漁るドン欲妄者
妻子に食を与えず 親の食さえ奪い取り
自分のアゴさえ動けやそれでよい
今生の己の因果が早くも今生に報い
冀に這う虫エビカニに食わして太らせて
それを食して生き乞さらす輩さ」
「キツタネ工足を人の口に突つ込んだり
転げて鼻をかじったり キヒヒ アヘ
へと笑ってるんじゃない 笑つてるよ
うな歪んだ苦しい顔さ でも手前の面
は許せても人の笑苦しい面は許さねえ
そこでドツキマクル ホンマニもう
ムチやチチヤでござります 吐き氣と
狂い氣のバカ面同志 互にくたばるま
で狂うつきやないよ」

おめおめクソ船に命ながらえた
生き地食い地の張つた自分が情けない
反歌一音にきく朝太郎のアダナサケ
かけしや鼻の曲りこそすれ（注）
最後に出てきた性病ババア 死んじまえを
三回くりかえし叫んでから 歌ううた
「色情インガに惑わされ

ウゴロで狂いっぱなし 土台この世の規
準規範がなくなつて クラゲのようくに骨
なし血ナシまだ沈まらずや定遠はの言の葉
の如く 沈むはずのヨイヨイ船は沈まな
い
蛙の顔に聖水か 李下に冠を正し 馬脚を
現わして乗り込んだ 死のうがクタバろ
うがどうでもよい 国太く意地の強い者
でさえ

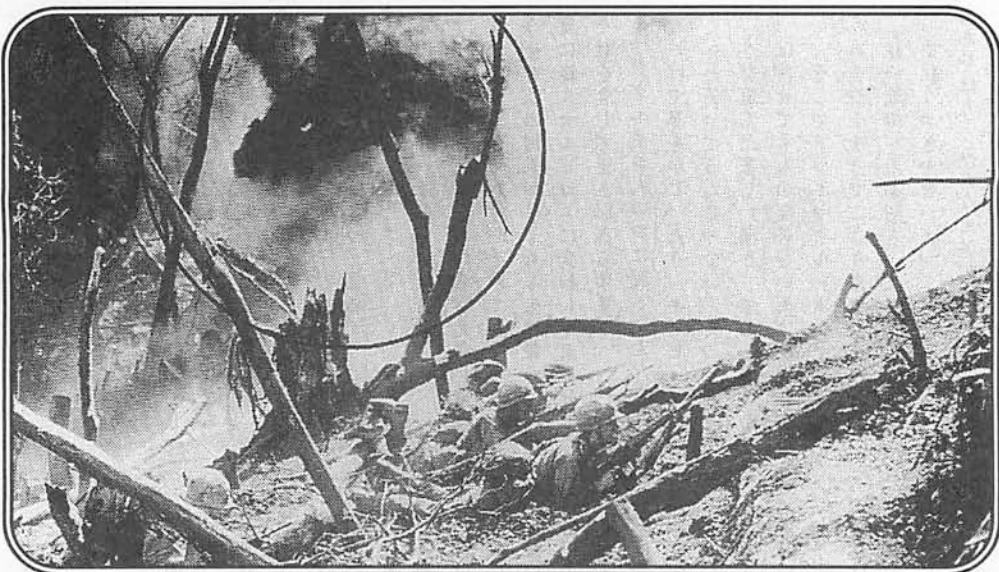
シツコイまでに人と船を叩く雨と波のため
いても立つてもいられない 狂わなくとも
もいい者までが狂つてしまふ これもア
クマ様のおタメシか

ああ 狂うものはかくの如きか 昼夜をわ
かたずーこれでは語り部のわたくしまで
も主張してしまう

大波と大風と雷の音 バリバリビカーツ
ブヨヨオオン ハヒヤーフ キエエの声

人々はかつてあの日に見た悲しき榮光の日
に戻つてゆく

(注)は、引用、書き替えるなどしたものの、必要がなければ(著作権などの問題)、これを正式に届ける用意があります。



写真題

「心靈写真、恐竜現わる現わる」

心靈写真の解説 鈴木克彦

アシャウ・バレー（937高地）で戦う米兵。ハンバーガー・ヒルと呼ばれたそこでは熾烈な戦いがあった。1969年。

当時米国内ではベトナム戦争反対の大シユブレヒコール。だが二十才の若者は一線に出されていった。帰還兵も世間から冷たい目で見られていたらしい。ヒッピーが平和運動（米の兵役逃れが協力）している只中であまりに激しい闘いに驚いて出てきた恐竜の靈。

土台知能の低い恐竜が靈となつて現われるはずもなく、写真の写りによつてそう見えるだけだが、浅ましい戦争と、北ベトナムの頑強な戦い、かつてベトナム戦争反対のやつらが湾岸戦争の時は、コロリと寝返つて戦争賛成に回つた事実。こうした時代と人を皮肉つた作品、しかも人の写したものを使ってトボケたマネをしたところが面白い。

おきなわ旅日記

恩田美代子

那覇に着いて、すぐに捜し始めたのは銭湯。沖縄に銭湯はないよ、という大坂の友達の話を信用せず、青空の下日射しの強い沖縄の街を歩きまくった。けれど答えは「ナイ！」歩き疲れて喫茶店へ。自分は那覇から船で来て、などとよもやま話をしたついでに何気なく銭湯の話をすると、マスターがびっくりして「うちの実家が、この近くで銭湯やってます」とおっしゃる。やったあ、捜しまくった甲斐があったぞ。マスターの子供と手をつなぎ目指すのは日の出湯。ガラガラと女湯をあけると、更衣室と浴槽がワンフロアになっている。しかも、南国の沖縄は湯に長くつかう必要が無いせいか、浴槽が小さくちよこんとまん中にあり、その回りを洗い場が取り巻く。シャワーは、自由に動かせる物でなく、高い所からシャワーっと流れる落下湯。そして、洗い場でまどろむおばちゃん達、昼間のためか、近所の顔見知りの女性達が集っている。皆、いっせいに私を見、すぐさま話かけてくる。初老の巨体の女性は、私の体をじろじろ見ながら「あんた、細いねえ」と羨ましげ。いつの間にか、自分の悩みを私に相談してきたりと、なんとも親しみやすい。皆の話題の中心は、米軍基地。これ迄、私が訪ねた東京の銭湯で政治の話を耳にしたことが無かった。それだけ、米軍基地は、ここでは身近な問題なのだと実感する。

「無くなるのかねえ、基地でもうけている人もいるからねえ」と言っているので、私が、無くなった方が良いかと問うと、自分の意見を大きい声では言えないという答えが返ってくる。何故なら、自分の隣近所の誰が、米軍に土地を貸して生計を立てているかわからないからと。隣近所に波風を立てたくないのだろう。それにしても、ここに居るごく一般の人達の頭を悩ませ、隣近所で本音を言い合えない米軍基地って、一体なんなんだ！

この晩、南の島で泳いでいる夢を見る。

(おまけ) どーして、今回の題名は～池～なのでしょーか？ (答) 沖縄では、浴槽のことを「池」って言うんだよーん。池に浮いていると金魚になった気分。そんじやまた！

湊田より

新潟県新潟市の信濃川が海へ注ぐあたり「湊町」よりおくる
たいて「母」にも「妻木」にもならないペーパー

「手荷物が多い。」これは昔、私が自分の母親によい口ひで言葉だ。
「なべで重い物に行くに必要な重い荷物持て行くや。財布一つあれば
ええやん。一体何を持ち去るの?」いつも大荷物の母に半ばあきれて
よほびのたるものがあった。かど世の中一タイプであつて母は粉れもなく、大荷
物族なのだ。性格だから仕方ないんだうつ…と思つていた。
しかし最近、よく仕合してやつとした。私もどうやら大荷物族だつた。
日々重たいカバンを持ち歩くが一日終えて使つておたるは財布だけ、
なべと口も多い。一体何を持ち歩くのやう らうと確認。
…役に立つやうなものあるか…

・財布ももと余しだら誰もつと申され本(じぶん)読まない。

・毎日まだら友人(ゆうじん)だら返済(かんさい)する事(こと)あるのか?

・なんでも書類(しょるい)持たへない。(り書類(しょるい)ハート(かこむ)田(た)

の他…。なんでもいじへん。(ばいじ)と思(おも)ひゆるわざが数(すう)点(てん)。

それでは 小学校の遠足(とんそく)の時(とき)も「ナイフ」と「方正磁石」と「タメ」(タマ)をせん

めに持(も)てた(だ)いだになあ。(遭難(さうなん)とサバイバル、といふにあらがつてた)

實際(じじき)に災難(さいなん)が違うは別(べつ)として 空想(くうそう)ひとつ 荷物(はもの)を用意(ようび)するが 何(なん)だか

辛(から)しい。荷物(はもの)の量(りょう)は時(とき)企(き)む事(こと)の多(おほ)さなるかもしけなし。あまり建設的(せっせつてき)でない企(き)み事(こと)だ。

先日(さきのひ)、新潟(にいがた)にヤフキ(ヤフキ)に母(おやし)と街(まち)を歩(ある)いた。相変わらずの重(おも)しき荷物(はもの)。

一体母(おやし)の企(き)みは何(なん)のか。それにしても二人そろって重(おも)しき荷物(はもの)、筋張(きんばう)りな親子(おやしとこども)二人苦笑(くしりく)して いた。

一回橋(いっくわき)美(うつく)しき



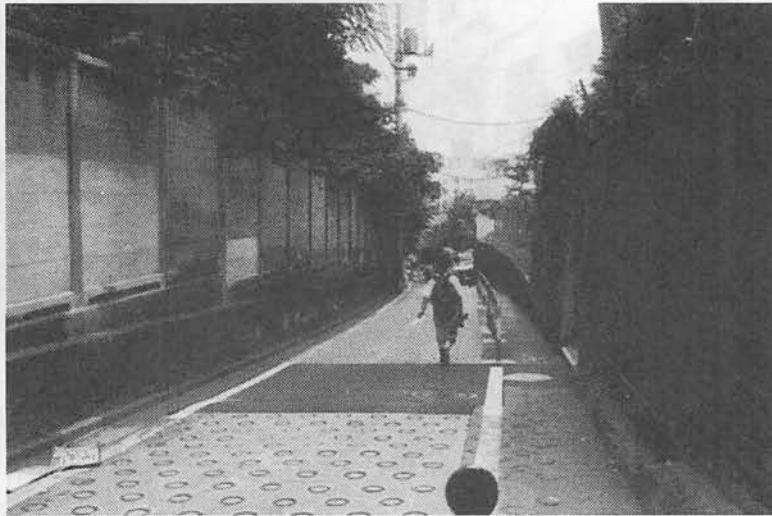
東京

第14卷

路上
ふらり
散歩

写真・岡田知子
文・笠井和明

「真夏の文京区」



真夏の太陽は眩しすぎて誰からも見向きもされない。

今年は例年にはない酷暑統きで東京の街並みは息切れをしている。しかもこれでもか、これでもかと、容赦なく陽は注ぐ。過去最高の熱中症患者を病院に運び去った21世紀、東京の夏は、その患者と同じく視線を失いスローダウンで倒れる怪物のようでもある。

酷暑統きであろうが、ふらり散歩は東京を往く。日照りの中、地下鉄丸の内線茗荷谷駅を降りる。

ここ文京区は江戸北部の旧大名屋敷街として栄えた地帯。が、北といえば裏玄関の方面。表玄関部の大名屋敷街（中央区、港区）が明治維新後に急速に市街化、都市化されたのとは裏腹に、この一帯、どうも時代の主流な流れから乗り遅れたようである。東京の都市化は戦前戦後と山手線を中心にして、そこから分岐する沿線沿いに発展していったのであるが、主要なターミナル駅を持たないからなのか、文京区は都心部にありながら何故か悠々自適なゆるやかな歩みを遂げる事となる。それでいて歴史、文化が嫌という程あり過ぎるから、さながら江戸から平成までの時間軸が入り交じつたまか不思議かつ特異な空間と相成ってしまった。坂が多い複雑な地形もそれを担保している。

茗荷谷駅は春日通り沿いにある殺風景な駅。この春日通りも都心部とは思えぬ程殺風景な沿道。駅から出、茗荷坂を下つて登る。人々が東京という街に想像するのとはまるで期待外れの街並み。坂と緑と荒れ果てた廢屋ビルと新興住宅にセミの音、小日向という地名がどこか皮肉にも聞こえる複雑怪奇な迷路園。坂のアスファルトは熱でうだる。起伏がある地形といふのは、そこに陽が当たる場所があるかと思えば、他方で陰ができる。すべてを照らす海岸部の健康さはもちろんそこにはない。太気が濁むようなどんよりとした感覚もこういう地形ならではの実感。

この辺りは基本的に住宅地でありながらも、住宅街ならではの平凡さというものが起伏によつてかき消されてしまつているのが、おもしろおかしな





所。平たんな道をだらだらと歩くより、坂道を登つたり、下つたりした方が、街並みがくつきりと見えるようだ。いずれにせよ、坂だろうがどうだろうが、そこにへばり着くように密集して生活をして来た東京ならではの光景。

坂につられてあれよあれよと降りて行けば、そこは首都高の下を流れる神田川。白い護岸は高速の陰になる。ところどころにおっちゃんの荷物がブルーシートに小奇麗にまとめて置いてある。谷底と貧民は切っても切れぬ縁。

方角違いと、再び坂を登る。切支丹屋敷の謂れをおどろおどろしく見せる寒々とした地下鉄倉庫下の地下道。その脇の坂を登れば徳川慶喜終焉の地となる殺伐とした大蔵住宅、様々な土地の歴史は平成の街並みの中平氣で埋もれている。

坂を登り切り、春日通りに戻る。春日というのは、かの春日局の春日である。実際に住んでいたのは湯島天神の近くであるが、この通り沿いには家康の生母の菩提寺である伝通院が高台の上にひっそりと建っている。徳川の女達の靈は江戸の裏手に何故か集められている。これもこの地ならではの陰の歴史か。

伝通院正面前の急な坂道を下れば、中小零細の印刷工場が今も建ち並ぶ小石川の隘路に辿り着く。インクの微かな臭いが流れ、印刷機のコトコトンという機械の音が響き、狭い路地にフォーカリフトが行き交う街。そのまま旧千川沿いに小石川植物園まで行けば、そこは「太陽のない街」の舞台になつた谷底の街である。もちろん今はお加代の父が「貧乏神本」をまき捨てた「千川どぶ」もないし、「お太陽さま」が「外ツ方向」しているトンネル長屋もない。複雑な隘路と、古びたしもた屋、そして谷底街特有の大気の濁みだけが、往事を偲ばせる唯一のものか。今や太陽はギラギラとしてこの街にも容赦なく陽を照らし続けている。

小石川植物園と言えば「赤ひげ診療譚」で有名な小石川養生所のあつた地。作中に登場する「むじな長屋」もここら辺りの坂下の貧民長屋。時代が明治になり、石川啄木が貧苦と病苦で亡くなつた地もこの近くの小石川五丁目。貧苦と言えば樋口一葉も忘れちや困る。彼女が亡くなつたのも、白山通りを隔てた丸山福山町（現西片一丁目）。ちなみに終戦後の水上生活者のメツカと言えば、水道橋駅近辺の神田川などなど…。「太陽のない街」は決して一過性のものではなく、貧民史として脈々とこの地に流れていたのである。

谷底の土地には、陽を見ずして亡くなつた者たちが漬み溜まつてゐる。アスフルトが熱に溶け、その封印はいつ解かれるのだろうか？

徳永直は共同印刷を職首された後、仲間と小さな印刷所を作り生計をたてていたと言う。小石川の零細な印刷工場群も、もしかしたらそんな流れを組むのかも知れない。それにしても世はIT時代、出版されども本は売れず。不況業種の苦しい悲鳴が今のこの街からも聞こえてきそうだ。

重い空気を振り払い、塙町東公園から教育の森公園に入る。こちらは高台、筑波大など文教都市ならではの教育施設が集中している。けれどよくよく見れば、ベンチには職を失い住居を失つたおっちゃんの姿。今日の貧困は居場所すら平氣で奪われる。職場や地域から引き離され、孤独な姿で路上に至る。再びどこかで群れればまだ救われる方なのだが、そのまま孤独な姿で終る最後も…。太陽がなからうとも街がある分まだ良い。

高台には高級なマンションが今は建ち並ぶ。教育熱心な家族がこの区には多く移住してくるとの事だ。「ホームレスでさえ新聞が読める」のだからもつと勉強をさせねばとの脅迫観念か、上へ上へと駆け登る。けれど、高台と谷底は地続きである事を人は忘れている。高枝の毒餌頭が見事ヒットしたように、坂の往来は誠に自由なのである。



再び坂を登つたり、下つたり、白山通りを抜け、旧白山通りに突き当たる。ここでしばし休息、昼飯、暑いのでもちろんビールで喉を潤す。

白山の高台にひときわ目立つ高層ビルが建つている。ありや何だと、近寄つてみると、東洋大学の校舎。文教都市には相応しいのかも知れぬが、この土地にはまるで似合わない。こんなにも坂の多い地形の高台に不細工な高層ビル建てて、何か教育に貢献するものでもあるのだろうか。しかも、この近辺は神社仏閣が多い白山の頂き付近。景観も何もあつたものではない。教養のない青少年達を大量排出する丘の上ののっぽな工場。さながらそんな所か。ごみごみとした交差点を水道橋方面に降りる。途中、白山神社とその付近を見学。時代に取り残された静かで清楚な家々が並ぶ。商店街もこじんまりと調和を保つていて。その落差に驚く。決して奢らない街というのはたとえそれが高台にあろうとも、親しみが持てる。そこに住む人々やそこで營みを続ける人々の息吹きは谷底の街と通じるものがあるからである。謙虚さと思い遣りというのはどこかで繋がつていて。都市の在り方も同じで、今や自意識過剰な建物だらけ。そこに文化も伝統も、そして他者への思い遣りも感じられない。



白山通りの裏道を歩く。古い木造の建物が多い。しっかりと生活を守つて来た底力が感ぜられる。ここもまた謙虚な街である。

西片から本郷に入り、菊坂を登り、鎌坂を登る。バブルの頃立派な高層ビル化した文京区役所や白い屋根をかぶった東京ドームを高台から見下ろす。東京ドームホテルなる新築の高層ビルも真夏の太陽を浴びキラキラと光っている。野球と馬券売り場と遊園地、スポーツクラブやら講道館。ホテルも出来てと、来る度に一大行楽地に変わつて行く。それでいながら、いつ見てもバツとしないのは、狭い土地の中に何でもかんでも詰め込もうとする無理さ加減が見え隠れするからか。健康的な家族連れは郊外のレジナーランドへと移動し、遊園地などそのうち見捨てられる事であろう。唯一の集客効果はくたびれた中年おじさん達が永遠に愛する長嶋ジャイアンツと、一獲千金を夢見る競馬。

水道橋を渡り、神田神保町方面まで足を伸ばす。ここいらも教育施設が立ち並び、都内最大の古本屋街が並ぶ文化と教養の学生街。けれど、どこか垢抜けしない。古本を求めて来る客の多くは珍本を求め地方などから来る人々のようで、地元の学生はまあ、しごく当然のよう古本など求めはしない。「ガリ勉」や「本の虫」は絶滅し、取り残された学生産業はどうやって生き残るかを模索し続ける。今所のネームバリューにより全国の本マニアで持つてているようなものの、それもいつまで続けられるか？

「太陽族」の末裔が、竜哉的子孫を殖やし続けるだけの教育や文化しか与えなかつた戦後の東京の街。貧困を忌み嫌いそこから駆け登る事しか目標を見出せなかつた人々。決して立ち止まろうとしない機能的な思考回路が教育という名のもとで大量生産され、挙げ句



の果ては何ごとも 打算。

この地は東京の中心部に位置していながらも、産業が移転した後の地方都市のような様相である。時代の進化に乗り遅れた街々はくつきりとこの都市の陰影を映し出す。

空洞化という言葉が最も良く似合う東京。知の空洞化、歴史の空洞化、文化の空洞化、人間性の空洞化。

真夏の太陽は、それに焼き尽されてもならぬが、それを遮つてもいけない。ポチボ子日向を歩き、少しばかり日陰で休むのが丁度良いのかも知れない。真夏の坂道を歩いているとそんな気がしてきた。

神保町の交差点からの坂道を明治大学の脇を抜けお茶の水駅へ登る。建て替えられたこの大学もかつての勇ましい立て看板もなく、ホテルのようなロビーハウスにはガードマンが佇む。

聖橋を渡り、文京区側に戻る。その名の由来でもある名水が湧き出た往時の姿はここにはない。夏の午後の光りの中、どこか取り残された感のある乱雑な駅。



聖橋から眺める谷底の神田川の川面は流れを失い
ゆらゆらと彷徨つていた。

読者のページ

読者のページは「露宿」の自由投稿スペースです。御意見、御感想、編集部への質問など「ろじゅく編集室・読者のページ宛」にお送り下さい。

暑中お見舞い申し上げます。

前略。同封の便箋三枚が「露宿」への投稿文です。こりずにまた、厚かましく書いてみました。よろしくお願ひします。

己の駄文、拙文もちゃんとした活字になると、いちおう読めるもんだな、と妙に感心しているところです。ま、これが目いっぱい、と言うところですから、背のびすることなく、自分の思いを文字に託せたら、と思つてゐるらしいです。さて、昨日(7月23日)、連絡会ニユース他、二点の差し入れがあつたこと告知がありました。これから、仮出しの手続きをしますので、例のごとく来週にならないと手もとに届きません。気長に待つということだけです。いつも、ありがとうございます。感謝しています。

ところで、これは「はり師いが丸」さんへの質問なんですが、血圧を下げるツボというのはあるんですか?私は少し血圧が高くて、減塩菜処遇を受けているのですが、どうにかして下げたいと思っているのですが今一步のところで実現できないのです。降圧剤という薬を服用していたのですが、副作用?ということで背中にかゆみが出たりした為、医務に頼んで中止してもらいました。そして、一ヶ月毎に血圧測定しているのですが、今のこと80~150ぐらいで安定しています。自覚症状がないので困ったものなんですが、どうにか自然に下げてみようと思つてるので、ツボの指圧で効果があるのでしょうか?当然のことですから、何の器具も使えません。医学的にも、原因が分からぬし、有効な方

法(降圧の)は、ないということですが、本当にそうなのでしょうか?

すみません、ごめんどうでしようが、もし分

るようでしたら、ご教示下さい。よろしくお願ひ

い致します。「露宿」の中で、私が一番樂しみにしている

のは「路上ふらり散歩」です。これからも樂し

ませて下さい。それと13号では、中津川さんの

「宿無しの散歩道」主人公の春子と同じ思いで

読んでいました。「命」に対する男の気持。私も

そのように心優しくありたいと思つたらしい

です。

署さも本格的です。元気で頑張って下さい。

では又。

谷口さんへ

ツボとしては、有名なものでは人迎(じんげい)ということがあります。

ノドボトケの指2本分外側のあたりに頸動脈の脈がふれるところがあると思いますが、そこ

にとります。

何か小さい粒(石とかブドウの種とか)をテープで貼つてピップエレキバンのような形でそれを指圧する部位としては、高血圧からくる脳梗塞などを防ぐために、後ろの髪の生え際あたり

をもみほぐしてあげるのがよいと思ひます。本来の東洋医学的な治療としては、身体全体のバランスをとることで高血圧という症状のひとも変えていくのが理想です。

(はり師いが丸より)

お暑い毎日です。とにかくかない

ませんね……

血圧80~50の身体では参つてしま

います。ぜいたくなのかもしれま

せん。

代金同封しました。夏まつりがあ

ります。ぜいたくなのかもしれま

せん。年金者の病院代どうにか

してほしいと云う気持ちです。

単純な私などヘタをすると「純ち

やん」と追っかけに走る要素が

充分あります。目を開いて『よく

みきめわない』ととんでもない時

代がくるかもしません。

向暑に向います御体大切に

T

拝呈

この度の露宿の荘丁は大変良かつたと思っております。しかも投稿作品の凄いこと。驚きですが、下手といっては何んだけど、むし

つたと思っております。

稿作品の凄いこと。驚きですが、

この度の露宿の荘丁は大変良か

ったと思っております。

下手といっては何んだけど、むし

つた

ろ路上にうめく者の、例えばジェ

ニーのような、生の、ギタギタの

作品こそ、露宿の命だと思うので

す。新宿あたりのワセダ崩れの知

的な、線の細い、理論的なものは、

直に訴える力は弱いと思います。

鈴木克彦

望月大成氏の作品への苦言

先日亡くなつた作曲家だんいくまの師、作曲家やまだこうさくは、その名曲、「赤とんぼ」「からたちの花」を創作したとき、歌詞のもつ日本語としての抑揚（イントネーション）をそのまま曲にのせるように心がけて作曲した、という話を田氏が「文芸春秋」誌上で語つているのを見たことがある。

望月大成氏は作曲家を業としているのを知つた上から、こんな言い方をするのだが、望月氏の文体の激しさは、作者の心の抑揚の激しさがそのまま表現してしまっていなかろうか。

ここで、萩原朔太郎、室生犀星、佐藤春夫、中原中也、立原道造、伊藤静雄と詩人名を並べ、その詩作品の魅力の共通性を考えてみると、その独自の内容というより、その音楽的文体の独自性にあることに気づくのである。それらの詩人と同じ魅力が望月氏の目指しているものなのかどうか：

中原中也の代表作品の冒頭「トタンがセンベイ食べて春の日の夕暮は静かです」は正に音楽を聞いている思いがする詩句だ。「トタンがセンベイ食べて」とはこの表現

がもつイントネーションを読む（聞く）べきであつて、「ブリキがアンパン食べて」とは替えられないわかつたこと

となるのかもしれないと考えられる。（因みに、「トタンがセンベイ食べての意味は『トタンが生き物だつたらきっとセンベイを食べて春の夕暮の気分にひたることだろう』という意味合いで私は考へてゐる。）

こんな異合に思つてくれれば、望月氏の文章作品は素材というより、その文体を味わうべき作品なのである。題材・テーマが面白いけれど、題材を味わうべき作品なのである。

「露宿11号16ページ」に載つた〇〇学会批判などは、〇〇教であつても〇〇党であつても私には大した違ひを感じない。組織

悪、権力悪への批判がテーマなのである。いや、そこに望月大成作品の魅力の核心がある。（それは白痴の語る物語で、響きと怒りに満ちているが、何の意味もありはしない。）

シェクスピア「マクベス五章5節 more matter with less art。（）とばのあや

ンベイ食べて春の日の夕暮は静かです」は正に音楽を聞いている思いがする詩句だ。

矢田道夫

署中、御見舞申上ります。

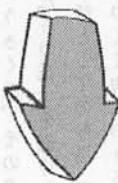
署名
松井義久
以来一年有余、おだにモ病氣と云ひ
關ひつてます。

松井義久
以来一年有余、おだにモ病氣と云ひ
關ひつてます。

署中お見舞い
申上げます

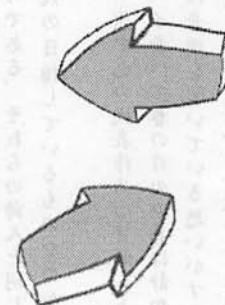
署名
中原中也
1961年1月10日
トタンがセンベイ食べて春の日の夕暮は静かです。

はり師いが丸の



肝心かなめ

はり師いが丸



夏の眠りは浅い。永遠にやってくる明日に疲れていたとしても、退くことも引くこともできない明日を迎えるとしても、妙に諦めがつく。今朝もまどろみから這い上がると、陽差しは既に強く、花々の一日もとうに始まっている。去年はサルスベリがほんとに百日紅いことを認め、どんなに暑くても、嵐が来ても、朝も昼も夜も咲き続ける様に「参りました」と頭を下げて夏を終えた。

夏の花は長く、主張が強い。春の花々のように咲いた先からはらはらと散りゆくようなことはせず、その場で枯れてから花を落とし、盛りの季節を終える。3年前の夏はノウゼンカズラがよく目についた。今年は夾竹桃ばかり見つめている。

先日人を見舞うのに、夾竹桃を手折って行きたいと思った。垣根から枝の伸びる近所のお宅にお願いしそびれて、結局花屋に寄った。店は淡いやわらかな花で溢れていて、木に咲く花は置いてなかった。仕方なく「お見舞いに行くんです」と言うと、店のおじさんが黄色いバラを包んでくれた。その時の想いをのせるには、その花はやはりやさしすぎたが、おじさんが「いってらっしゃい」と送り出してくれたことで、一寸口元がほころんだ。素敵な商売だな、と思う。

あちこちに切花の供えられた墓地を通っていくと、手で摘んだ野菊が手向けられている墓があった。見渡すと荒れ地野菊が一面に生えており、この場所で摘まれたものだとわかる。男の人の墓だった。相手が彼だったからこの花を摘んだのか、手向けた人の胸のうちに野菊がふさわしかったのか。しばし墓石の前に佇む。

「命日は命の日と書くわけですが」と、坊さんが今の命が希薄になっている世の中を憂う話ををするのをぼんやりと聞いていた。故淀川長治氏が「誕生日は母親に感謝する日」だと言っていたことを友人が教えてくれた。赤子が産み落とされる時、死にゆくものでなく、これから生きゆく「命」があることを知る。そこから始まる毎日は、日々命の日である筈なのに、忙しいとか、忘れたとか、急いで心を亡くしてばかりいる。命の濃度を薄める液は己の中にも存在する。

「しあわせは ほんの些細なもので 荷物になるほどしあわせは もはやしあわせとは呼べないので」

求める営みは、これ以上でも以下でもないのに。

うらばんえ。逝った人たちを偲ぶ季節が過ぎて、9月のはかなさに身を委ねる。ある日、彼岸花が涌き出たように咲き、一齊に消え去ると秋が訪れ、私たちは再び冬を待つ。

のうがきを垂れよ！言葉で人を惑わせよ！露宿3年目の秋へ！

我が国首相の文化・教育・言語水準の低さが脆くも露呈した21世紀。生命力の欠片もない言葉の洪水に誰がストップをかけるのか？ほがい人が差し出す皺と垢だらけの手を見て嫌悪しか感じない哀れな人々にどのようにして真実を教えるのか？その手を慈しみ、その手を握りしめる心をどのようにして復活させるのか？

言葉を政治屋やマスコミに奪われたままにするな！日々口にしている言葉に生命力を吹き込み、形にせん！そこから我等の生活と現実を導き出せ！文法がいかに乱れようが気にするな！本当の事を表現しようとする力はどんなに綺麗な言葉よりも深い。俺らの言葉を人を人と思わないこの世に叩きつけよ！のうがきすら垂れられないのなら、そこはこの世の地獄だ！

次号15号は10月25日発行予定です。

原稿締め切りは9月30日必着にてお願いします。

[露宿定期購読の御案内]

路上文芸総合雑誌「露宿」はもちろん全国の本屋では売っていません。毎号確実に読者のお手元に届けるために当方では定期購読を承っております。

定期購読8回分 5000円（郵送費込み）

定期購読4回分 2500円（郵送費込み）

一回ごとの購入でも大歓迎。一冊送料込みで660円となります。その場合は御面倒でも継続購読を連絡して下さい。

申し込み方法

郵便振替用紙（00160-6-190947ろじゅく編集室）に定期購読もしくは継続購読とお書きになり、住所、氏名を明記の上送金して下さい（発行ごとに郵送します）。尚、郵便振替の他、切手での受け付けもしております。FAX、メールにても注文承り中。

まとめ買いはお安くなります。

2冊以上は送料無料、5冊2000円、10冊3500円、50冊15000円（いずれも送料込み）となります。

編集後記

「夏去りし 残る暑さも 愛おしく

なんて強がる 秋待つ身かな」

残暑厳しきおり、皆様お元気ですか？暑いというだけで、何かが起こりそーこの夏と思っていたのは私だけ？あんなに待ち遠しかった夏も終わろうとしています。何かあった人も平凡に過ぎていった人も静かに秋の風に包まれる事を願って…。
ではまた！（お）

露宿ペン俱楽部短信

今年の夏は猛暑ということもあり、高齢化が進む我が執筆陣は夏休みと言ったところか、今号は前号よりも投稿量が減りました。また、毎回巻頭を飾ってくれていた富士森さんが創作意欲を蓄えるため長期休養宣言。代わってデービッド氏が復活。いろいろあった夏です。けれど、これからは文化の秋。まあ、健康一番で、そしてぼちぼちと良い作品を書き続けましょう。

露宿バックナンバー

在庫一掃セール好評継続中！

露宿バックナンバーは創刊号、3号、5号、6号、7号、8号、9号、10号、11号、12号、13号の在庫があります（2号、4号は売切です）。限定1000部発行の印刷物ですのでお求めはお早めに。バックナンバーに限り1冊300円（3冊以上は送料無料）での一掃セールをしています。お求めはろじゅく編集室まで、郵便振替用紙、FAX、TEL、メールなどでご注文下さい。（尚、在庫が切れた場合はご容赦下さい）。

Rojuku

定期購読大募集

♪露宿を置いて下さるお店・スペースを探しています。お気持ちのある方はぜひご連絡下さい。まとめ買いの場合は、とてもお安くなります。

♪露宿では広告を募集しています。又、投稿お便り、大歓迎です。下記住所のほか、「ろじゅく編集室専用ファックス」03-3981-6746がございます。「露宿」の注文・原稿送付・広告申込・お便り等、何にでもお気軽にご利用下さい。

「ろじゅく」

この雑誌は、路上生活者の方達が読み、書き、表現をする場を提供する為、つくりました。一冊でも多く雑誌を印刷し、路上生活者の方に手渡したい思いと、利益が出れば炊き出しのお米代にしたい為、心苦しい限りですが、多くの方のご理解とご支援をお願い致します。皆さんのお気持ちに届く、熱く丁寧な雑誌づくりを目指します。

購読費・スポンサー費送り先

郵便振替口座

00160-6-190947

「ろじゅく編集室」

♪露宿 ROJUKUはココで買えます。

- ◆模索舎 東京都新宿区2-4-9 TEL/FAX 03-3352-3557 ◆TACO ché 東京都中野区中野5-5-2-15中野ブロードウェイ3階 TEL 03-5343-3010 FAX 03-5343-4010 ◆スペースかぼす 東京都新宿区大京町3新大京マンション304号 TEL 03-5367-5666 ◆新宿中央公園ポケットパーク（毎日曜午後6時から8時まで）TEL090-3818-3450 ◆城西教会 東京都渋谷区西原1-19-3 TEL03-3466-0445 ◆山谷労働者福祉会館 東京都台東区日本堤1-25-11 TEL/FAX 03-3876-7073
◆石手寺 愛媛県松山市石手2-9-21 TEL 089-977-0870 ◆ぐりん・びいす 宮城県仙台市青葉区立町18-12-104 TEL/FAX 022-213-6739

路上文芸総合雑誌「露宿 (ROJUKU)」第14号 2001年8月25日発行（隔月刊）

主宰・笠井和明 編集 / 発行・ろじゅく編集室 〒170-0014 東京都豊島区池袋1-14-5-13

TEL/FAX 03-3981-6746/090-3818-3450 (笠井)

Eメール・rojuku@d9.dion.ne.jp URL・<http://www.d9.dion.ne.jp/~rojuku/>

郵便振替口座 00160-6-190947 加入者名「ろじゅく編集室」

販売協力・新宿連絡会、露宿ペン俱楽部 印刷・株式会社ラジオグラフィー